

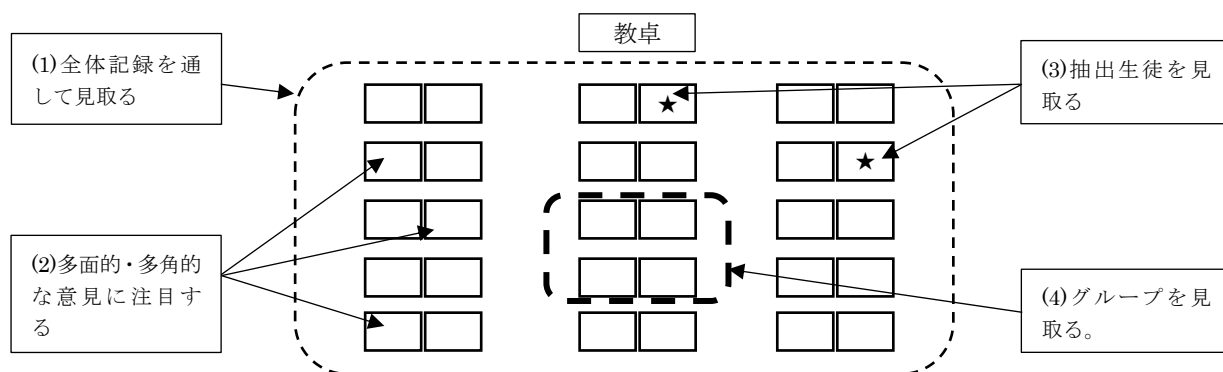
(4) 実践例2 学習形態・GTの工夫

ア 話し合いの工夫

発問には教師は生徒がじっくり考える時間を確保したい。そこから自己の考えをもった生徒は仲間に伝えたいという思いが膨らみ発表につながっていく。仲間の意見を聞き、揺さぶられながら、道徳的価値に対しての自身の思いが深まったり、今まで自分が気付かなかった課題に出会ったりする場面、すなわち道徳的価値の一面的な捉えではなく、自分と異なる考えや様々な方向から考えを深める場面が必要となる。そこで、授業者の明確な意図を具現化した編成を工夫した小グループ（ペア・トリオ・カルテット）での話し合い活動を取り入れた。また、多様な意見を引き出すためにも自分の考えを気持ち良く話せる学級経営を大切にしている。

イ 授業記録を活用した小集団の検証

授業者と生徒の関わりや学びの様子（全体の印象と個々の事実）を時系列に記録し、ねらいに沿った変容ができたかの視点から、具体的な手立てを改善していく。（大仁中実践）



■ 「わたしのいもうと」（公正、公平、社会正義）大仁中1年実践事例



この授業では、一人一人の学びの様子から（公正、公平、社会正義の道徳的価値）様々な考え方の生徒をバランス良く分け4人グループを構成した。また、男女2名ずつとして話しやすい雰囲気の下、多様な意見が出るようホワイトボードを活用し、仲間の意見が視覚的に残ることで話し合いが深まっていた。



■ 「父の言葉」（親切、感謝）大仁北小5年

この授業では、お互いの顔を見ながら相互指名を行ったり赤白帽を活用し、自分の意思表示をしたりする目的からコの字型隊形を作った。行う児童の感想からは「自分の意見が言いやすい雰囲気であった」とあった。



ウ GT（ゲストティーチャー）の活用（大仁中事例）

校長が指導構想に積極的に関わることでねらいに即した幅広い人材をGTとして導入する機会を増やした。価値観の交流を活発にするために、地域の方や市役所職員、東日本大震災の体験者である宮城県の小学校長などに参加をお願いしている。また、GTとの事前の打ち合わせを緻密にし、道徳的価値の自覚を深めるために思考を深めることが重要だと考えている。



【2年 郷土愛】GTの櫻井氏は、大仁在住であり、大仁中の卒業生でもある。また、教材で扱う実在の登場人物穂積忠の偉業に感銘を受けており、「歌人 穂積忠」の著者である。そのため、先達から学ぶ郷土愛をより効果的に伝えることで、郷土への誇りを促し、郷土に対して主体的に関わろうとする心情を育むことができると考えた。